新京日日新聞
夕刊
十一月二十八日
本紙定價 一部五錢 一ヶ月壹圓五拾錢 郵税
廣告料金 普通一行壹圓五拾錢 特別一行貳圓五拾錢
發行所 新京永樂町四ノ一 新京日日新聞社
電話 編輯局專用 營業局專用 (3)(3) 三三二〇五
發行人 松本勇
編輯人 十河榮忠
印刷人 水越內之介

奇怪！江上の戎克船を英國船が庇ふ

我外務省から英國に嚴重撤退要求

肯ぜざれば容赦なく爆撃

【上海廿七日發國通】廿七日わが海軍航空隊の偵察によると、鎭江附近の揚子江上には數千の戎克が大混雜を極めてゐる、右はおそらく支那軍隊及び彈藥、糧秣の輸送に當てられてゐるものと信ぜられるが、この戎克群の中央にはあたかもわが爆撃を避ける手段であるかの如く英國旗を掲げた大型汽船三隻及び小型汽船三隻が碇泊してゐるとの奇怪な事實が判明した、わが軍は目下外務當局を通して英國側に對し右船舶の一定期間內に於ける撤退を嚴重要求すると共に萬一これを肯んぜざる場合は容赦なく爆撃を加ふべき旨の決意を通告した

上海輪渡碼頭占領

【上海廿八日發國通】上海軍特務部廿七日發表＝齋藤憲兵分隊長の指揮のもとに廿六日午後四時半市政府經營にかゝる輪渡碼頭を占據し發動機船一隻を鹵獲、碼頭の掲揚塔に日章旗を掲揚せり

【上海廿八日發國通】齋藤憲兵分隊長の市政府輪渡碼頭占據は、實力をもつて黃浦江上の水上警察權接收の第一歩と見られ、今後の活躍は注目される

更に飛行機二百臺

支那、ソ聯に供給要請

【上海廿七日發國通】外人筋の確聞によれば、ソ支不可侵條約に附隨せる武器供給密約に基きソ聯より支那側に供給せる飛行機は事變發生以來今日迄前後二回にわたり合計三百機を算し內第一回分は百七十機（全部ソ聯製にあらず）であるが、この方は過去の戰鬪によつてわが軍に爆擊乃至擊墜されて今日幾許も餘たないので、その間の經緯を知るものは少ない、第二回分の百三十機はずつと遲れて最近に至りやつと到着何れも蘭州で組立てた上その大部分は西安洛陽の兩空軍部隊、各航空學校に配置、一部五十機は南京方面に廻された事が判明した、ソ聯側では第二回分提供と同時に飛行士十一名、機械技師八名を派遣し來り各航空學校における學生の訓練、裝備の教授に當らしめてゐるが、支那側はさらに二百臺の供給をソ聯に要請、目下モスクワでは駐ソ支那大使蔣廷黻、大使館附武官鄧文儀をしてソ聯軍事當局との交渉に當らしめてゐる

十一月の皇族親睦會

【東京國通】十一月の皇族親睦會は梨本宮殿下御主催にて二十七日午後三時から澁谷の御殿で開かせられた、秩父宮、高松宮、三笠宮各殿下を始め奉り各皇族方も御參集あらせられたが、席上鐘紡社長津田信吾氏を召され「支那事變の裏表」と題して政治、經濟、社會等各方面における日支間の現情に關して約一時間に亘つて講話を御聽取、終つて茶菓を召され種々御歡談などあらせられて午後五時頃御散會になつた

今こそ歐米諸國は支那の正體を正視せよ

＝佛國各紙認識を正す＝

【パリ廿七日發國通】日本軍の蘇州、無錫占據以來パリ言論界には既に軍事行動も終局近しとの印象が多いが、パリ各紙は大部分「日本軍南京へ進軍」とか「日本軍南京へあと百三十哩」とかの見出しを使つてゐる、プティ・ブルー紙、レピュブリツク紙の論說はいづれも日本軍大勝の因果を論じてゐることはますます この印象を深からしめてゐる 各紙の論調次の通り

△プティ・ブルー紙 日本軍の破天荒の前進は諸列强をヂレンマに陷れた、すなはち調停或ひは干渉によりて日本を押へるか、しからざれば拱手傍觀日本が南京政府を潰滅させ支那全土を植民地化するを待つかのヂレンマである、しかるに前者は現狀においては不可能のことに屬する、こんな破目に導いたものは何か、諸國の對支認識不足、現實を無視した對極東策これである、支那側の饒舌に耳を傾けてゐた列强は無邪氣にも支那が中央政府を有する近代國家だと考へてゐた、しかし支那は斷じて國家ではなく、その政府は幻想的存在に過ぎない、かくて列强は國際聯盟だけを信賴し獨伊兩國を信賴しなかつたしかも列强がこゝ數年來國際政局に對して犯した誤謬は凡て右に淵源するのである

▲レピュブリツク紙 日本の徹底的勝利は殆ど既定の事實となつた、しかしてこの事實はフランスに關する限りでも上海租界及び佛領印度支那等において日本と新しい接觸面を齎したからフランスは遲かれ早かれ日本と折衝會談しなければならぬ、それは單獨か或は英米等同じ地位にある國と提携の上かは別として要はフランスは極東に對して新しい認識の上に新しい政策を施すべき充分の心構へが必要である

△マタン紙 戰線の背後では市民の生活は全く平時に變りない、嚴しい軍隊も雇傭兵となると軍律等何としても缺けたところが多い、南京に近づくにつれ檢閱も嚴重だし、一般備も堅固で憲兵その他一般兵士の素質も遙かに優秀だとどう見ても外國居留民のものとは思はれない家屋の屋上高くフランスや米國の國旗が飜つてゐるのを見受けるが、これは支那人が日本軍の空爆を怖れて家屋保護の手段を講じてゐるのだ、外國領事はしばしば斯かる國旗濫用に對し抗議を提出したが無駄だつた之は全く長年の習慣に基くので今更どうにもならぬことなのだ

在ソ邦人に對し醫師診斷を拒絕

外務當局嚴重抗議

【東京國通】外務省當局は廿七日在京ソ聯邦大使館に對し最近頻發する文明國とは認め難いソ聯の不當行爲につき左の如く注意を喚起すると共に事態改善方を嚴重要請するところがあつた、覺書要旨は

一、在ウラジオストツク帝國總領事館に於ては杉下總領事以下近來病人續出しつゝあるがソ聯人醫師は帝國總領事館へは往診せず、外交代表を通じて交渉するも醫師を得ること極めて困難にして、何等醫療も受くること能はざるが如きは誠に人道上由々しき大問題といふべく、最善の醫療施設がソ聯在住帝國臣民のため適時提供せらるゝに至るやう在京ソ聯邦大使館の配慮方を要請するものである

二、東京に於て療養中であつた廣岡副領事は杉下總領事の病狀が一日も早く歸朝治療を必要とするに至れる爲急遽歸任することゝなり在京ソ聯邦大使館に必要なる手續を依賴したところ同大使は本國に請訓中なりとて言を左右にしてこれに應ぜず爲に廣岡副領事は廿六日敦賀發の便船にて出帆することは不可となれると共に次の便船には必ず間に合ふやう手續方を依賴するものである

三、在ウラジオストツク帝國總領事館は水道敷設方に關し數年來ソ聯官憲と交渉中なるも容易に埒あかず、止むなく飮用水は水賣りにより購入し居り十一月二十日頃より水賣入は總領事館への水の供給を拒絕するに至つたので同館より更に交渉の結果漸く數日中に總領事館に水道を敷設するやう斡旋すべしと述べた趣であるが帝國外務省は右約束通り近日中能ふ限り速かに水道が合理的なる經費をもつて敷設せらるゝやう在京ソ聯大使館の配慮方を要請するものである

觀縣下の敗殘兵爆擊

太湖を横斷して常州を奇襲

【天津廿七日發國通】上田航空部隊は廿七日正午頃大名東北方凡そ卅キロの觀縣において約四百の敵敗殘部隊が南方に移動しつゝあるを發見、各機交互に猛爆を加へこれに潰滅的大打擊を與へた

【無錫廿七日發國通】京滬鐵道に沿ひ常州に向つて進擊中の〇〇部隊主力は突如發動汽船に分乘して太湖北方の湖上を横斷奇襲を試み水陸相呼應して常州に肉薄、虜を衝かれた常州の敵は非常な動搖に陷り一部は既に後退をした模樣である

上海の食糧、石炭暴騰天井知らず

＝當局對策に腐心＝

【上海廿八日發國通】皇軍の上海確保により市內の治安は勿論のこと、經濟界の混亂も急速に恢復してゐるが、石炭ならびに糧食の不足は甚しい共同租界內においては米の缺乏に鑑み、同業會員及び一般市民への販賣は西貢米毎擔定價九元とし、一般市民は毎人一元以上を購入すべからずと規定して食糧難に備へてゐるまた上海の石炭業公會の發表によると、市內商店の石炭在庫は全く缺乏し、向ふ三ケ月間を支ふるに過ぎず、一方滬東には約二萬噸のストックあるも市內への搬入困難なるため市價は無煙炭噸當り四十元普通炭廿四元を唱へ、同會は目下租界當局とこれが對策に腐心してゐる

【ニューヨーク二十七日發國通】ニューヨーク・タイムスの廿七日南京特電は斷末魔に喘ぐ南京の慘狀を左の通り報道してゐる

武官を除く支那政府首腦は既に全部漢口へ引揚げてしまつた、これは迅速果敢なる日本軍の進擊のまへには支那軍の抵抗も永くはもちこたへられないだらうと認めたことを物語るものだ日々二千乃至三千の負傷兵が前線から後送され南京市內はこれがため大混亂を呈してゐるが、その殆ど大部分は砲彈或は爆彈の破片で傷つけられたもので機關銃彈を受けた者は少く小銃彈による負傷者に至つては全く皆無と言つていゝ有樣で將兵達は口々に日本軍の砲彈、爆彈の物凄い破壞を物語り日本軍の姿は全然見えないのに砲彈の雨のみが降り注ぐので手も足も出ないとこぼしてゐる、常州、無錫、吳興等の病院から運び出されて來た重傷者達は下關停車場のプラットホームに放置されて寒風に晒され食料の補給もなく續々と死亡して行くといふ地獄畫を現出してゐる

支那兵の負傷は

殆どわが砲、爆彈によるもの

ドイツ驚勳章一等の贈進があつたほか日本側關係者四十九名に驚勳章を贈與したが、一等の分は左の通りである

部總長宮殿下にそれぞれ

廣田外務大臣、永野元海軍大臣、寺內元陸軍大臣、潮元內務大臣、有田元外務大臣、武者小路大使、東鄉元歐亞局長、堀內外務次官、西尾元參謀次長、長谷川元海軍次官、島田軍令部次長

日獨防共協定 日本側功勞者 獨鷲勳章贈與

【東京國通】日獨防共協定締結關係ドイツ側功勞者に對し廿四日贈勳の御沙汰があつたが、同時にみぎ協定締結に關しドイツ國政府から閑院參謀總長宮殿下ならびに伏見軍令

領事會議終る

全滿領事會議第二日は廿七日午後二時より軍人會館にて再開、司法領事のみで滿洲國への移讓に關する技術的問題に關して懇談をなし、午後四時よりは領事と各分館主任との間に懇談あつて午後六時議事全部を終了、午後六時半より澤田參事官の曙における招宴に臨んだ

鶴見祐輔氏 軍司令部訪問

昨日來京せる鶴見祐輔氏は廿八日午前十時半澤田大使館參事官の案內で軍司令部を訪問した（寫眞は右鶴見氏）

淺野良三氏來京

淺野セメント、大同セメント取締役淺野良三、同理事長兒玉國雄の兩氏は、吉林大同セメント工場の增設工場火入れのため廿七日午後六時廿分着あじあで大連經由東京より來京、直ちにヤマトホテルに入つた、一泊の上吉林へ向つた

南滿治水計畫 機上檢討

平井出交通部次長は豫て調查研究の南滿一帶に於ける治水計畫が過般國務院審議を通過明年度より經費一億五千萬圓十五ケ年繼續事業として愈よ着手することに內定したので之が具體的準備のため金丸參事官を帶同、一週間の豫定を以て上京中のところ內務省その他關係各省との間に諒解成り日本に於ける治水計畫の權威者たる工學博士辰馬技監、中川前技監、谷口東京出張所長は十二月初旬打揃つて來滿し機上より詳細視察の上、交通部案を檢討研究することになつた、これで國利民福を主眼として計畫された南滿地方治水計畫は豫算通過を俟つて愈よ着工するの運びとなつた

東鄉駐獨大使 神戶發赴任

【神戶國通】駐獨大使東鄉茂德氏はドイツ生れのエリイ夫人及び令孃を同伴、廿七日午後二時神戶出帆ドイツ汽船グナイゼナウ號で各方面の歡送裡に一路ドイツに向つたが、同船上新大使は「ドイツは五ケ年振りである」と冒頭しながら左の如く語つた

日獨兩國は既に一年前から固く結ばれてゐる、私も滿洲事變當時ドイツ大使館附參事官として在任してゐたので友人も多く頗る心强い

その日く

□ 今こそ支那の正體を正視せよと佛紙說く、我等はこの言葉を佛紙にもいひたい

□ ソ聯の對支援助、この方は裏口でコソコソ、爆彈の見舞ひに文句も云へまいが……

□ 片や英國の對支援助愈よ露骨、高陞號事件の東鄉平八郎出現を待つもの多し

□ 皇軍の征くところ敵兵潰え四百餘州既に併呑の槪、地下の太閤感懷や如何

□ 治慶目前に迫つて各機關ともその日を待つばかり、關東局機構改革の騷ぎは昔の夢

陸の荒鷲部隊

廣德附近の敵陣を爆擊

【上海廿七日發國通】陸軍飛行隊川村、野中、瀧、神崎各部隊は二十七日早朝より夕刻に至る迄全力を擧げて地上部隊の第一線に協力、廣德、溧陽附近の敵陣地に對し反復爆擊を加へ、また一部は寧國、溧陽を結ぶ軍用道路を破壞し地上部隊の作戰を容易ならしめた

天津、黃河河畔 津浦線開通

【平原廿七日發國通】山東軍が退却の際目茶苦茶に爆破して行つた津浦線黃河附近の鐵路はわが工兵部隊が嚴寒を冒し晝夜兼行の難作業を強行した結果、敵が完全に爆破した最大の難所張莊—禹城間の徒駭河鐵橋の架橋なりまた廿六日夜に至つて晏城—北濼口間の補强工作も完全に終了、沿線の工兵部隊がシャベル鶴嘴を振りあげての萬歲に送られて廿七日早朝一番列車が開通しこゝに津浦線は天津より黃河河畔まで直通するに至つた

上海中心の航路は 外國船七線

【上海廿八日發國通】上海を中心とする水路交通は未だ外國船によるの外全く停頓狀態にあるが、外國船によつて目下連絡されてゐる航路は左の七線である

▲上海、青島、煙臺、天津線 大沽汽船の順天、盛京、怡和汽船の德生、利生
▲上海、廈門、汕頭、香港線 大沽汽船の慶元、齊南、怡和汽船の澤生、阜生
▲上海、寧波線、大古汽船の新北京、イタリー汽船の恩德、德平
▲上海、福州線 怡和汽船の恒生、力洋の永貞
▲上海、南通線 大沽汽船の武寧、蕪湖、怡和汽船の平和
▲上海、溫州線 大沽汽船の成都
▲上海、海門、定海線 英商怡隆洋行の神福

新駐支ソ聯大使の正體 モロフの

【東京國通】ボゴモロフの後任として駐支ソ聯大使に任命されたオレルスキーの正體については各國注目の的となつてゐるが、廿七日某當局に達した情報によれば、新任大使オレルスキーとは全く變名であつて右は前ソ聯邦國防人民委員部次長スミルノフであることが判明した、なほスミルノフ新任大使は赴任に際し飛行機五十臺、飛行士十名の外多數の軍需品を携帶して出發するといはれる

加藤鮮銀總裁 北支から歸鮮

【京城國通】北支に出張中の加藤鮮銀總裁は、廿七日午前十一時五分京城着飛行機で歸任したが左の如く語つた

天津、北京に行き軍司令部その他關係各方面と意見の交換を行つたが、天津、北京方面の治安は完全に恢復し平常化してゐる、北支の經濟界については、まづその基礎となる通貨制度を確立し、それについで金融、交通、通信、農業を整備することが必要である、鮮銀としては差當り石家莊に出張所か事務所を置く方針で天津支店の管轄に置くことになつてゐる、その他太原保定、濟南等にも追つて何等か施設をしたいと考へてゐる

防共の問題は今後さらに支那事變を契機として有効適切に調整强化されることゝ思ふが、この點に關しては全力を擧げて邦家のため盡す覺悟だ

關東局辭令

廿七日附ならびに廿六日附關東局辭令左の如し

警部 佐藤終吉 蘇家屯署長に補す
同 保月義雄 奉天警察署勤務を命ず
同 宮崎智文 通化分署長に補す（以上二十七日附）
警部補 大屋靜 任警部 開原警察署勤務を命ず
同 江田義雄
同 綾部由巳夫
同 淸水宏
任警部 新京警察署勤務を命ず（各通）
同 澤原義勝
同 星亮三郎
任警部 四平街警察署勤務を命ず（各通）
警部補 中島爲六
任警部 營口警察署勤務を命ず
同 松本光
同 豐幾軍治
同 福井米吉
同 狩野傳吉
同 脇坂重治郎
任警部 奉天警察署勤務を命ず（各通）
外務省警部補 大久保淸六
奉天總領事館通遼分署長に補す（以上廿六日附）

警部補昇進者左の如し
新海邦男（新京）中野秋雄（奉天）武藤進（蘇家屯）平山淸（奉天）東一二三（四平街）杉山忠美（奉天）前田正（四平街）佐久間榮藏（安東）平尾市太郎（鐵嶺）高橋勇次（瓦房店）齋藤靜吾（范家屯）松島篤（本溪湖）

中島新京署長 明夜着任

新任新京署長中島菊平警視は母堂危篤の報に鄉里久留米に歸省中であつたが、廿九日午後十時着ひかりで着任する

高橋警部來社

廿五日付を以て依願免官となり滿洲國入りのため待機することゝなつた領警署保安係主任高橋守藏警部は廿七日辭任挨拶に來社した

警備隊山本大佐 挨拶に來社

新京警備隊步兵大佐山本源右衛門氏は廿七日挨拶に來社

人事往來

着京

▲淺野良三氏（淺野セメント）同 兒玉國雄氏（大同セメント）二十七日來京ヤマトホテル
▲濱口嘉太氏（映畫業）同國都ホテル
▲西野邦三郎氏（會社員）同
▲中澤規矩夫氏（大倉商事）同
▲田中吉政氏（三井鑛山）同
▲加藤德雄氏（日滿製粉）同
▲渡邊源吉氏（材木商）同向陽ホテル
▲柳谷寅治郎氏（官吏）同
▲根本作太郎氏（日本鑛業）同滿蒙ホテル
▲田邊秀雄氏（吉林鐵路局）同蓬萊ホテル
▲宮崎鑑一氏（會社員）同都ホテル
▲中村茂氏（同）同
▲森脇演三郎氏（同）同
▲佐藤孝文氏（官吏）同國際ホテル
▲石谷篤三郎氏（會社員）同
▲西河修吉氏（滿鐵社員）同富士屋旅館
▲高木貢氏（同）同

出發

▲古澤幸吉氏 二十七日哈市へ
▲下田勝久氏 大連へ
▲松原梅太郎氏 哈市へ
▲池淸氏 同
▲三村哲雄氏 大連へ
▲鈴木市五郎氏 哈市へ
▲原田英雄氏 吉林へ
▲福島昌夫氏 哈市へ
▲村上齊邦氏 大連へ
▲新里朝雄氏 吉林へ
▲廣崎行雄氏 同
▲古賀政雄氏 克山へ
▲渡邊準治氏 安東へ
▲吉野幸治郎氏 吉林へ
▲三神吾朗氏 哈市へ
▲田中茂太郎氏 奉天へ
▲笠原直造氏 東京へ
▲中村久氏 四平街へ

消える新京領警両署今昔物語り（完）

反滿抗日匪やペストと戰ふ

かくて治外法權の撤廢へ

その後昭和七年九月都合に依り一時閉鎖し昭和八年九月再開滿洲事變を契機とし、人口增加に伴つて昭和八年警部以下九十八名に增員されたが、その後驚異的人口の激增に反し署員は遞減され現在八十二名を以て定員とせらるゝに至つた、而して事變後派出所の設置は

▲新發屯警察官吏派出所（昭和八年六月十日開設）新京奠都以來邦人居住者の激增に城內並滿鐵附屬地全く擴張の餘地なく必然的に新發屯方面への膨脹となり新都市計畫に基いて急速なる發展を招來し狐狸の住む一寒村は化して「ネオン」の市街となり派出所の新設又必然的の問題となつてこゝに開設を見た

▲寬城子警察官吏派出所（昭和九年一月卅日開設）

▲南嶺警察官吏派出所（昭和九年十一月三日開設）

▲農安警察官吏出張所（昭和八年九月十二日開設）農安は吉林省農安縣公署の所在地で附近特產品の集散場として殷盛を極めつゝあつた、以前この地に分館警察署を置いたが、昭和七年三月廿七日滿洲事變により外務省警察官吏引揚げと同時に閉鎖されたが、昭和八年九月十二日再開、同十一年一月十日外務省告示を以て農安領事分館を閉鎖出張所に改變す

▲通化路及び義和路警察官吏派出所（昭和十年十一月十九日開設）國都南方發展新市街形成に基いて設置さる

▲菊水町警察官吏派出所 菊水町は特別市の最南端に位し從來新發屯の受持管區であつたが、滿鐵關係社宅陸軍關係官舍、陸軍病院、滿鐵醫院分院、競馬場、中學校等の主要建設物の設置並に邦人居住者の增加に依り開設した

斯くして特別市を中心に

管下躍進的發展の一路を辿つたが、馬匪賊橫行の昔から急進的都市としての特殊事情のもとに進展した過去現在を省みてこの人口にしてこの廣汎なる地域に亘つて散在する在留民の保護取締を僅々八十餘名の少數を以てなされること誰れか『署員の負擔いさゝか過重なり』と言つたが過重は言ふまでもなく眞に至難事にして想像するだに冷汗三斗の感あるものである 即ち在留民中には滿洲事變後の所謂滿洲景氣の風に煽動され或は混亂に乘じて一攫千金を豫想渡滿するもの、彼等の多くは現實の滿洲に直面して豫想を裏切られ呆然なす術もなく所持金も費消擧句の果は罪を犯しまたは自暴自棄魔窟に出入して麻藥の中毒者となる等暗黑に蠢くもの激增しこれが豫防取締保護に關しては愼重に研究すると共に對策に苦しんだものであつた、又一方『滿洲事變後の如く匪賊の橫行甚だしきことはかつてなかつた』と古老の語るが如く事變後は南京政府、ソ聯が背後にあつて操縦する

十九代 中島菊平

反滿抗日匪の橫行

に在留民の生命財產は一日一瞬たりと雖も安全を許されず常に戰々兢々としてその生業に從事し得ない諜境にまで追ひつめられた、然も署員は關東局として三十年傳統の警察精神に毅然として奮起し不眠不休警戒警備に又は軍隊と共同作戰積極的に討伐隊を編成しては炎署極寒を冒して馳驅、治安維持に死力を盡した、或は又南京政府、ソ聯共產主義者と連絡をもつ反滿抗日分子、民族獨立に藉口して不逞をなす者、奇矯過激の思想を抱持するもの等常に管內の治安攪亂を計畫その機を窺ふ輩等不逞分子多數侵入滿人間に介在蠢動しつゝある情勢下によく適確なる情報の蒐集を期し彼等の策謀の余地なからしめた、さらにまた移民國ことに鮮農の保護については領警署のとくに苦心を重ねたるところのものであつた、彼の萬寶山事件の如き少數を以て敵ゝ對峙刻々と迫る身の危險を省みず頑強に死守して傳書鳩による應援を求むる等同署の悲壯な思ひ出ともなる事件であつた

さらに眼を轉じて

は衞生方面の對策に關しては他署の想像し得ない苦心努力が拂はれた即ち衞生思想缺除せる滿洲國大衆と共同或は接續生活に基因して四季傳染病も絕へず就中管內農安縣方面に於けるペストに至つては最も猛威を振ひつゝあるところであるがこれが豫防撲滅に寢食を忘れると共に積極的には衞生施設及衞生思想の普及促進にその完璧を期し近時成績着々現はれるに至つたその他日滿顯官要人の警衞警備に國都治安に或は滿洲建國の大業に翼贊殘せし功數へ來る時決して尠からずそれが八十余名の署員によつてなされたるものたゞ吾が大陸國策の大使命に毅然と立ち鬪ひ拔いた一死報國の警察精神の發露あるのみその偉大なる功績は滿洲事變警察史上燦然として輝くものであらう

以上名譽に輝く領警三十年の歷代署長は

警部柴沼一郎、警部遠藤盛邦、警部石本米太郎、警部田中守一郎、警部吉田程治、警部重信常彥、警部渡邊清、警視橋本清愼、警視南亭、警視加藤好晴、警視水野柳治、警視峰岸安太郎、警視中尾大三郎、警視石井金三郎、警視清水徹、警視高山勝司、警視廣石都磨、警視猪苗代直躬、警視藤島宣法、警部鵜木親三（署長事務取扱）と十九代の更迭を見た

□

省みて關東都督府の名に依つて呱々の聲をあげ幼にして關東廳と改め成年に及んで關東局と改名し今や齡將に三十年幾歲の艱難と鬪ひ幾變遷を經て茲に偉大なる功績と共に世界に冠たる警察を建設した史上燦然と不滅に輝く關東局警察と共に〃新京署〃〃領警署〃また邊境の守りに幾多の功績を殘しさらに國都警備の重鎭として益々警察威信の發揚に適進せんとするの時、治外法權附屬地行政權の撤廢移讓の國策斷行によつてその名は十一月卅日を期し永久に消滅するのだ

然し兩署も

十二月一日を期して大滿洲國警察官として王道樂土建設の劃期的聖業に當らんとするものである前途亦洋々たるもの舞臺はより廣く展開されてゐるのだ願くば三十年史の幾體驗をして遺憾なく發揮し大滿洲警察の完成と共に有終の美を完ふされんことを—再び言ふ〃新京警察署〃〃新京總領事館警察署〃さらば！

煤煙匪驅逐 第二工作へ

煤煙防止と燃料經濟週間

來月二日から九日迄 各種座談會開催

「煤煙防止と燃料節約は先づ家庭から！」のスローガンの下に新京煤煙防止委員會では曩に第一段工作として一般主婦女中ボーイ等に對し廣く呼びかけたが偶々現下の非常時局を反映して豫想外の反響を呼び起したのに鑑み同委員會では愈よ近く酷寒期めざして煙匪の驅逐と燃料節約の徹底化に第二段の工作を進める事となり新京衞生工業會、首都警察廳、日滿商事燃料相談部等と連繫し左記の如く「煤煙防止と燃料經濟週間」の行事を大々的に行ふこととなつたこれが爲特に元商工省燃料研究所燃燒室主任山崎喜一郎氏及日滿商事東京支店研究室森井已作氏の兩氏を招聘し之が援助を依賴する事となり山崎氏は既に二十八日新京着森井氏も近く來京の筈である、因に山崎氏は永く國立燃料研究所にあつて斯界に於ける有數の權威者として令名あり、森井氏又『スコップ持つては』氏の右に出づる者尠いと云はれてゐる程の腕の持主である從つて此の兩氏の名コンビに對しては非常なる期待がかけられてゐる、尙週間の豫定行事を概記すれば

十二月二日
煤煙防止運動一般に關する座談會（新京煤煙防止委員並に有志に對し）
場所 中銀俱樂部
時間 午後四時より

十二月二日
（A）「心得て置きたい石炭と其の焚き方の常識」に就て講演並に映畫の會（新京兩女學校生徒、青年學校生徒及その父兄に對し）
場所 西廣場社員俱樂部
時間 未定
（B）「手焚き並に機械焚き一般に就て」座談會（新京衞生工業會員並有志に對し）
場所 記念公會堂
時間 午後五時

十二月四日
「手焚き並に機械焚きの要領」に就て講習會機械焚きの實地指導（主として直接爐取扱者に對し）
場所 大興ビル講堂及地階煖房室
時間 午后一時

十二月五日
「手焚き並に機械焚きの實地指導」
場所及時間（追而發表）

十二月六日
（A）「手焚き並に機械焚きの個別的打診と指導」（依賴申込先に對して）

十二月七日
「煤煙防止と燃料節約デー」開催、主として警察官による煤煙濃度の測定ポスター、ビラ、ラヂオによる宣傳と指導

十二月八日
「煤煙防止と燃料經濟に關する展覽會」と相談デー
場所 寶山及び日滿商事燃料相談部實驗室

十二月九日 前日同樣

傳染病豫防法 十二月一日より實施

民生部ではペスト、コレラ、チブス等急性傳染病の撲滅につき日本側各關係機關と協力して例年非常なる努力を續けてゐるが、これが萬全を期するため豫てより傳染病豫防法の制定を計畫立案中のところいよいよ廿七日の臨時國務院會議に上程可決されたので、卅日頃公布し十二月一日より實施することゝなつた

京張屋の小火

廿七日午後八時十五分頃特別市興安大路五京張屋南海幾松氏方二階より發火、天井に燃え移り大事に至らんとしたが馳せつけた日滿消防隊の機敏な活動により天井一部を燒失して同四十五分鎭火した、原因は煙突の傍らにあつたガソリン二合が顚覆散亂して煙突の過熱に引火したものと見られてゐる、損害は約二百圓餘幸に人畜に異狀なかつた

男女年齡別にスケート記錄會

來月四、五兩日西公園で

多期戶外運動の華スケートは年一年盛大を加へ西公園內スケート場は連日大小スケーターで埋まつてゐるが、新京體育聯盟氷滑部では技術の向上發達を圖るため男女年齡に應じて別表の如く標準記錄を制定十二月四、五日兩日に亘り記錄會を開いて登錄することに決定した

種列／年齡別	男子 廿九才迄 A	男子 廿九才迄 B	同 卅—四十迄 A	同 卅—四十迄 B	同 四十以上 A	同 四十以上 B	女子 A	女子 B	男子小學 A	男子小學 B
五百米	五二秒	五七秒	五八秒	一分三秒	一分二秒	一分一〇秒	一分一三秒	一分一七秒	一分	一分五秒
千五百米	二分五五秒	三分一〇秒	三分二〇秒	四分	三分三〇秒	四分	三分五〇秒	四分四〇秒	三分五〇秒	四分四〇秒
三千米	六分	七分	八分	一〇分	—	—	八分	九分	八分	九分
五千米	一二分	一三分	一五分	一六分	—	—	一五分	一六分	一五分	一六分

なほ記錄は西公園スケート場に於て本部計時員及役員の指示により計時されたものに限る

漁り ……（新京郊外にて）

新京商業學校から恤兵金を寄託

ブラスバンド發表會の醵金

新京商業學校では去る二十日ブラスバンド研究會を晝間は一般生徒に、夜間は保護者ならびに有志に發表したが、非常な盛會でその際、勿論無料開放であつたが會場に獻金箱を備へ、恤兵獻金の趣旨を總へ、有志の醵金を仰いだところ紙幣銅白銅貨取まぜ金十五圓二十七錢集まつたので二十七日、學校を代表して同校教諭泉隆志氏が本社を訪れ右義金を提出、獻金方を寄託したので本社では關東軍へ獻納の手續きをとつた

卒業生送別會は一月中に行ふ

治廢が齎す敷島高女風景

來るべき治廢に備へて各界とも新制度の準備に追はれて廣汎なる人事異動が行はれ國都官界の人の動きは連日赴任着任と往來が激しくなつた、この關係上學校兒童、生徒の轉校受付は相當の數にのぼつてゐる、元來が植民地の通有性として從來にても內地に見られぬ轉校風景を示してゐたので有つて、殊に中等學校男子生徒は寄宿舍に殘すことも出來るが女子生徒は困難で特に敷島高等女學校の如きは甚だしいものがある、同校は現在七百五十名の生徒數を有してゐるが本年四月より既に轉校生數入退學併せて約二百名といふ想像以上のものにのぼつてゐるが、今回の異動で又も增加する形勢を見せてゐる、中には既に卒業期を控へてゐる五年生は當地に殘すといふ人も有るので、學校當局では滿洲における女學校制度が五年制より四年制に改正現在の三年生より實施されることに成つてゐるからその見地から見て來春三月卒業生は二月頃に退學しても卒業證書を渡したい意向をもらしてゐて卒業生送別會は早くも一月に行ふことに決定した

活佛離京

滿洲國の發展狀況を紹介するため國賓待遇として招聘した西藏後藏の活佛安欽呼圖克圖一行は二十四日入京以來國都の各機關を視察見學中であつたが日程を終り二十八日午前十時新京驛發列車で湯崗子に向け離京した、驛頭には張國務總理、齊參議ら政府要人を始め在京喇嘛代表其他多數の見送りあつたがこれら見送りに對し活佛は一々叮嚀なる挨拶をなし間もなく發車が迫ると喇嘛僧が奏でる玄妙摩訶不思議なリズムがフォームに流れ人々を驚かせ最後部展望車のデッキに立つた活佛は見送人の振る帽子に應へつゝ數々の印象をのこして再び夢の國へと歸つて行つた

マニラ日本人會 一萬五千圓獻金

【マニラ廿七日發國通】マニラ日本人會では去る九月上旬の國防獻金第一回分として邦貨約一萬圓を獻納したがその後第二回國防獻金募集中のところ一萬四千四百九ペソ（邦貨換算二萬四千六百圓）を得たので廿六日總領事經由で獻納した、尙日本人會では更に第三回獻金募集に着手した

王府居住邦人 獻金を寄託

前郭旗王府居住是安電氣商會勤務の行本鶴次氏は二十六日買物に來京した際剩錢金六圓三十錢を東二條通り片岡洋行工作部に託し「些少ですが國防獻金にお加へ下さい」と本社へ寄託して來た

二十六才の迷ひ子女

廿八日午前十時頃日曜で閑散な新京署保安係に大きな迷ひ子が迷ひ込んだ圖們銀河街料理店若木屋抱藝妓小茶羅こと梅里キク（二六）は廿三日より向ふ六日間の許可で奉天方面旅行中であつたが廿七日奉天から歸途汽車中で紹介人風の男と知り合ひとなり來京の上同人へ荷物を預け市內知人を訪問したが歸りの道がわからず紹介人風の男の名前も知らぬとあつて荷物は受取れず歸るに歸へれず警察に飛び込んだものであつた、係員は直ちに手配搜査して見たが皆目不明大きな迷ひ子に持てあましてゐた

漫畫家堤寒三氏

【東京國通】漫畫家堤寒三氏は廿九日東京發新京に向ふ筈

龍井光明學園燒く

廿六日午前三時半頃龍井光明學園事務所宿直室より發火し、折柄の烈風に煽られ同事務所ならびに隣接せる實踐女學部教室一棟を全燒、同六時半漸く鎭火した、原因は宿直室の溫突の焚き過ぎと見られてゐるが損害その他は目下調査中、なほこの火災により同學園の書類一切は烏有に歸したので學校の移讓を前にして學園當局は大恐慌を呈してゐる

興銀協和會分會

滿洲興業銀行では今回協和會分會を結成することゝなり二十七日午後二時から大興ビル講堂に於いて結成式を舉行した

あす（廿九日）

▲地方委員物故者慰靈祭及解散式、午後一時、滿鐵支社 ▲滿鐵ポスター展、三中井 ▲蒙古紹介展、寶山 ▲萬歲大會、公會堂

今晩の主なる演藝放送

▲七、三〇日曜特輯ニュース漫談（東京）▲七・五五歌謠（東京）晉丸外▲八・一五日曜講談「日露戰爭」（下）（東京）伊藤痴遊▲八・五〇舞台劇（東京）大谷友右衞門外

日本代表萬歳大會 愈よ今夕開演
半額割引券を御利用下さい

日本代表萬歳大會は既報の如く愈よ廿八日より三日間に亘り記念公會堂において華々しく蓋をあけるが、一行の陣容は京阪粒選りの精鋭を加へた全國萬歳界の藝達者連を網羅したもので、演しものも各種萬歳に亘つて彩り豐富なものが盛られ、久方振りの色もの登場として賑やかなところが期待される、本社では讀者優待半額券を刷込んだから御利用をお勸めする、普通入場料一圓、演題は毎日替り

お染半九郎 けふからの豐樂劇場

豐樂劇場廿八日よりの番組は左の如く松竹、東寶二番を配した二本立である

▽松竹京都「お染半九郎」岡本綺堂の「鳥邊山心中」を映畫化したもので林長二郎の半九郎、伏見信子のお染といつた顏合せである、シナリオ、監督には冬島泰三が當つてゐる、辻講釋をしてゐる若い浪人が所司代の若殿の危難を救つたことから榮達の道が展けるが、そこには辻講釋時代よりも深刻な苦惱があつた、遂には愛し合つた鳥邊山の女と共に死んでゆく―といふ新奇ならざる物語りながら多少心理的に喰ひ込んでゐるのが一概に見捨て去れない長所とされる、他に林敏夫、坪井哲、高堂國典、山路義人、柳さく子、北ひ露子など助演、大塚稔のキャメラ

▽東寶「樂園の合唱」藤井貢、丸山定夫、岸井明、藤原釜足、大川平八郎、小林重四郎、大早傳、佐伯秀男御橋公、入江たか子、高田稔、岡讓二、竹久千惠子、椿澄江、江戸川蘭子等P・C・Lのオールスターキャストこれに更らに古川綠波、エノケン、横山エンタツ、花菱アチャコ、永田キング等まで顏を並べ、笑ひと落ちを狙つた目まぐるしい豐富な場面、ストオリイを追ふより役者の顏を追ふ裡にあれよ〱と見終つて仕舞ふ後に何も殘らないといつた商品映畫、大谷俊夫の演出

◇◇母への抗議◇◇

松竹大船、佐野周二と三宅邦子の主演する映畫で、齋藤良輔のオリヂナルものにより深田修造が監督に當つた、父と娘とを捨て丶去つた母への憎惡と思慕の十五年、美しい英美が奇縁で知り合つた青年に赤い戀心を燃やす時、母は再び娘のその戀をあきらめさせやうとしなければならなかつた、何故？義理と愛情の相剋の中に唯一人の娘にすらうけ入れられない苦惱を有つ母の姿を描いた悲劇、齋藤達雄吉川滿子の他に新人堤美佐子が助演してゐる、長春座廿九日封切

日本代表萬歳大會
場所 記念公會堂
期日 廿八日より三日間

讀者半額券

本券持參者に限り入場料壹圓のところを半額割引（但し大人一人一枚限り）

新京日日新聞社

日本代表萬歳大會
場所 記念公會堂
期日 廿八日より三日間

讀者半額券

本券持參者に限り入場料壹圓のところを半額割引（但し大人一人一枚限り）

新京日日新聞社

"新しき土" けふからの銀座キネマ

銀座キネマ廿八日よりの番組は左の如く「新しき土」獨逸版に大都作品を配した二本立である

▽日獨共同「新しき土」アーノルド・ファンクと伊丹萬作の共同になる作品、これは萬作版以上によい出來であるとされてゐるもので、ストオリイのくだらなさはとも角として山を通して日本の姿を描いたファンクの功績は無視出來るものではない、先頃の「旅順港」あたりの愚かしい日本觀に比較してみればファンクの努力は褒められてい丶ものであることが判る、原節子、小杉勇、早川雪洲、市川春代、高木永二、英百合子、中村吉次、ルート・エヴェラー共演、キャメラはリヒァルト・アングスト、ワルター・リムム、上田勇

▽大都「影法師お江戸追放」大乘寺八郎と佐久間妙子主演のチャンバラもの、大作龍三の監督作品

さぼてん

銀パレスのハルミ君ある夜の事、彼氏のサービスに喃々と語つてゐました、まことによきサービス、その語るところ▼『新京の感じはどうだね』『ほと〱イヤだワ、姿やつぱり東京が！』『東京が戀しいつて…』『エ丶あの頃が…一晩泊り十三圓五十錢のあの頃が！』▲彼女は彼氏の存在も忘れたかの如くあだかも夢見るが如くその昔を追想してゐるのである、がさて彼女のむかし戀しいあの頃、十三圓五十錢とはさて？

二館けふから寫眞替り銀キネに『新しき土』の新登場は奇とされる、日獨關係緊密化の折から意味を持つものであらうが、大都映畫との組合せはちと考へものだ▼豐劇は例によつて例の如く二本立、替り日に一向に特徵が見られぬところ愈よ無氣力な色彩が濃厚化せんとしてゐる▼帝キネ二日目も好調、記錄もの「怒濤を蹴つて」がうけてゐるのは愉ばしい現象と言はれやう▼萬歳に半額券を刷込んだ、久方振りのお笑ひ、御利用をお勸めする

十一月廿九日 月曜 舊十月廿七日 庚申 赤口 收 畢宿

●一白の人 虚に乘ぜられぬ樣心を締めて掛れば咎なし 丁と庚と辛が吉
●二黒の人 次第に險路を辿らんとす靜に歩を運ぶべし 丙と辛と寅が吉
●三碧の人 躊躇する事なく萬事進んで效果を呈すべし 乙と丙と壬が吉
●四綠の人 八方より誘惑の手の伸び來る日妄動を戒む 甲と庚と壬が吉
●五黄の人 氣隨氣儘を耙せば物事失敗に歸する事あり 丙と庚と艮が吉
●六白の人 冗辯は過ち多く寡默なれば誤り少なし注意 甲と丁と辛が吉
●七赤の人 浮華輕薄は身を深淵に沈むるが如し病注意 甲と庚と辛が吉
●八白の人 家事を顧みず褒徵を招き易き日奮勵を要す 甲と丙と庚が吉
●九紫の人 勉むれば難事も達すべし樂觀は大敵と知れ 乙と丙と庚が吉

青春の宿

須藤鐘一作 柴谷宰二郎畫

(上海映上演)

(五四)

離れ行く(二)

松田家は、岡見家から七八丁はなれたところにある。

母屋の日本家屋は、平家だて――若夫婦と、耀子のすむ洋館は赤い瓦屋根の二階だてだつた。

洋館の玄關に、くるまをすてゝ二階へ階段を上る――二階は耀子の居室と、サロン風の廣い客室と――それにヴェランダがついてゐた。

『こゝがよいでせう――』

と、ヴェランダに導いて――耀子は、柱にとりつけられたベルをおした。

『話つて、なんなの?――』

と、耀子は、その聰明な眼をかゞやかして、きいた。

『……馬鹿に暗い顔をしてゐるわね』

『僕は……あなたに、おきゝしたいことがあるのです―』

『なあに?――ほゝ、わたしの素行上のこと?――』

『いや、そんなことではないんです』

そこへ、ベルに應じて、女中がやつてきたので、讓治は口をとざしたが――耀子が、ソーダ水を命じてさらせると

『あなたの考へをきゝたいのですが……目的の爲には、手段をえらばぬ、といふことがありましたね……それを、あなたは、どう思ひますか―』

『むづかしいことをいひだしたのね……目的の爲には、手段を擇ばぬ……つていふそのことだけについては、わたしには、何ともいへないわ。一つの目的を達するのにも、いろ〳〵な道が、方法が、手段がある場合もあり、いくつもの道のうち、いろ〳〵な障碍があつて、一つか、二つしか可能な道がないといふ場合もあるでせうし、また、始めからたつた一つしかないつていふ場合もあるでせう?――』

『……』

『始めから、一つしかない場合は問題ではないけれど、いくつもある場合には、目的の爲には、手段を選ばぬ。どの方法をとつてもいゝかどうかつてことは、問題だわ……』

耀子は、はこばれたソーダ水を涼しさうにすひあげてから

『……目的の爲には手段を選ばぬといふことばには、どんな慘忍なことをしてもかまはぬといふことや、どんなに墮落してもいゝといふことが含まれてゐますからね――慘忍なことや、卑怯なことをするのは、私は好まないし、墮落するやうな人は、わたしは、輕蔑するわ』

『……しかし……墮落したか法や、卑怯な手段をとらなければほかに、目的を達する道がない。といふ場合には、仕方がない――といふわけなんですね』

『さう――仕方がないと思ふわ――だけど、讓さん――こんな妙なことをいひだして……いまのことば何かあんた自身のことを抽象的にいつてゐるんぢやないの』

『……』

『さうだつたら……變ね。あんたの目的を果す爲には、いくつも手段があるぢやないの――何も好んで、墮落したり、卑怯な手段をとつたりしなくてもいくらでもあるぢやないの……』

『……』

『わかつたわ――あんた、幸子さんを利用して……下品ないひ方だけど、色仕かけで、岡見さんに復讐しようとしてゐるのね』

『さうです――』

と、讓治は、苦しげにいつた。